

研究課題	デジタルポートフォリオでまとめる、SDGs を身近な問題として捉え、実践・発信する生徒の育成
副題	～自分や家族、地域を見つめ、主体的に課題解決する力を育むために～
キーワード	SDGs、探求、プレゼンテーション、協働、自分ごと化、企業連携、ICT活用
学校/団体 名	公立佐賀県高等学校家庭科研究会「家庭科大好き」
所在地	〒840-0804 佐賀県佐賀市神野東 4-12-40
ホームページ	https://www.education.saga.jp/hp/sagashougyoukougou/

1. 研究の背景

最近テレビ番組やコマーシャルでもよく耳にする「SDGs」は、2030年までの達成を目指し、世界中の国や企業で各種取り組みが行われている。新学習指導要領にもその内容が盛り込まれ、小中学校ではすでに取り組みが始まり、2022年度からは高等学校でも重点的に取り組むこととなっている。また、社会のグローバル化に伴い、卒業後の生徒が活躍するためには、多様な価値観、情報活用能力、プレゼンテーション能力、実践力、順応力などがより求められるようになり、高等学校でも主体的・対話的で深い学びへとつながる学習が必要となった。

高校家庭科は、自己や家族、地域の生活を振り返り、豊かに過ごすための知識や技術を学ぶことのできる、最も生活に密着した科目である。誕生から死去までの時間軸と自分を取り巻く空間軸の中で、幅広い視点から生活を捉え、課題を発見し、解決に向かって取り組む。そこで、家庭科の授業全般にわたり、SDGsを自分ごと化し実践する生徒を育てるための授業展開を研究し、指導モデルとしての役割を果たしたいと考え、この研究に取り組んだ。

なお、佐賀県では数年前より一人一台の学習用PC、すべての教室への電子黒板の配置が完了しており、昨年度・今年度のコロナ禍では学校と自宅とをつないだオンライン授業、海外の高校生とのオンライン国際交流を実施している。各種講演会や学校行事も、各教室でのオンライン開催を行っている。今回の研究では、学習用PCや電子黒板を効果的に活用し、大学入試や就職試験で重視される面接も視野に入れ、生徒一人一人のプレゼンテーション能力の向上も目指す。

2. 研究の目的

本研究では、「SDGsを自分ごと化し、実践・発信のできる生徒の育成」(SDGsについての理解を深め、自己の生活に落とし込み、自分のこととして捉え、自分ができることを見つけて挑戦し、発信することまでをひとくくりとする)を主たる目的とする。多様な価値観で家族や地域の生活を見つめ、地域や社会の中で、お互いに連携しながら、自分にできる地域貢献、社会貢献を見つけて取り組むための知識や技術、目標に向かって学び続ける姿勢、実践や意見を発信し、大人を動かすためのプレゼンテーション力、豊かな表現力を、生徒の主体的な学習の中から身に付けさせたいと考える。変化し続ける社会の中で、「自分はどう生きるのか」を考え、成長し続ける大人に成長してほしいものである。

研究は、家庭基礎(2単位)の授業を中心として行いながら、HR活動や生徒会活動、学校行事と関連させる。生徒の活動内容を発表する場を設けることで、他の学年の生徒や保護者、企業、

地域の方にもその内容が広がるようにしたい。また、グループ活動やプレゼンテーションなどの体験活動の経験を積むことは、生活の中から課題を発見しその解決へ向けて主体的に取り組む力となり、1年時の経験が2年次、3年次の「総合的な探究の時間」や「課題研究」へとつながるものと考えている。

情報通信技術の発展によりリアルタイムで世界とつながり交流ができる現代においては、誰もが簡単に情報収集や情報発信をすることができ、SNS の特性を生かした職業が娯楽次々と登場している。家や学校に居ながらにして世界の情勢を知り、支援が必要な場所に必要な支援を届けることが容易にできるようになった。将来グローバル社会での活躍が期待されている高校生が、情報機器を活用し、社会の一員として、SDGs 達成のために、今自分ができることを見つけ、実践し、発信することの意義を実感させる研究としたい。

また、生徒たちの生活体験の乏しさを補い、多様な価値観での思考力を育て、成功体験を積ませるためにも、企業などの外部人材との連携し、グループ活動や発表の機会を多く設け、体験的活動を重視したい。

3. 研究の経過

「SDGs を自分ごと化し、実践・発信できる生徒の育成を目指す」ための取り組みについて、佐賀商業高校での事例をまとめた。なお、佐賀商業高校は、今年度佐賀県のがん教育支援事業の指定校でもあり、SDGs とがん教育を関連させた取り組みも行った。年間を通して、体験的活動を重視し、発表や活動場面はビデオカメラで撮影・編集し文化祭での上映、パネル化して展示、他クラスへの配信など情報の共有を図り学びあう環境づくりを行った。右列は、生徒のやる気に火をつけ、主体的な学びへと導くための指導の工夫や手だてについて記述している。

時期	家庭基礎授業および1学年での取組内容 ●は企業や外部人材と連携した取組、★はメディアで紹介	ICT活用※1	指導の工夫・ 身につけさせたい力	
4月	・「SDGsを自分ごと化」オリジナル冊子配布★（春季休業中作成） ・SDGs研究・実践（GW課題）及び発表会	（自作教材） PC・IWB プロジェクト	意識づけ	・具体的事例紹介 ⇒自分と比較
5月	●SDGs講演会（NPO法人地球市民の会）★	プロジェクト		成功体験・経験
6月	・ライフステージごとの「がん予防アドバイス」ミニプレゼン ・環境〇×フォトコンテストへの応募（夏季休業中の課題） ⇒個人賞（優秀賞）、学校賞（優良賞）受賞	PC・IWB PC	主体的態度・実践・発信	
夏休み	・SDGs×制服生地リサーチ（夏季休業中の課題） ・キャリアプランシート配布（夏季休業中に作成） ・SDGs×人権教育（LHRで実施。人権・同和教育の一環として）	PC 【紙面】 IWB		主体的態度・実践・発信
9月	●SDGsセミナー（カンコー学生版）★ ●SDGs×制服生地アイデアプレゼン大会★ （個人⇒グループ⇒クラス⇒学年⇒全校へと発展） ●ふるさと先生による味噌、豆腐作り実習★ ●牛乳普及協会による減塩乳和食講習★	IWB・同時配信 PC・IWB 他 ※Wスクリーン ※同時配信	主体的態度・実践・発信	
10月	・「おにぎりアクション2021」全校生徒で挑戦（文化祭企画）★ ・「ブラゴミモザイクアート」製作（文化祭企画）★	PC		主体的態度・実践・発信
11月	・高校生プレゼン大会応募 ●SDGs×がん教育講演会（NPO法人地球市民の会）★ ⇒RFLJ 佐賀募金活動（生徒会生徒主導）へ★	PC・IWB IWB・同時配信	主体的態度・実践・発信	
12月	●管理栄養士による「がん防止の食生活」ミニ講座 ・SDGs×調理実習（目標・自己評価にSDGsの観点を盛り込む） ・「みらい甲子園」へのアイデア応募 ・校内プレゼン大会にて1年生の活動報告	IWB・同時配信 IWB PC		主体的態度・実践・発信
2月	●SDGs×制服生地アップサイクル 被服製作実習 ⇒製品の販売、売上金のSDGs的活用につなげたい	録画動画 PC・IWB	主体的態度・実践・発信	

※1 生徒一人一人が所有する学習用PCを「PC」、各教室の電子黒板を「IWB」で示す。

※2 ポートフォリオは、「キャリアプランシート」を活用し、実績を書き込むものとする。

4. 代表的な実践

○年度当初にオリジナル冊子『SDGsを自分ごと』を配布し、意識を高める。

春季休業中に作成した自作教材を配布し、1年間の授業を通した『SDGsを自分ごと化する』取組を説明した。入学直後の生徒は、「SDGs」について「全く知らない」が半数以上、「言葉は知っている」が3割程度、「中学時に取り組んだことがある」生徒はわずかであった。冊子には17の項目それぞれの説明と、消費者ができる具体的活動例を掲載し、「高校生ができること」を考えて記入するスペースを設けた。また、全ページに『知る⇒できることを見つけ、実践する⇒発信する』のメッセージを入れた。高校では、学習したことを実践に活かし、発信する力を身につけてほしい事を伝えるためである。この冊子は、ゴールデンウィークの課題の参考資料としても活用するとともに、授業でも活用する（活用事例は後述）。具体的な活動例を書き込むことで、消費者として自分ができることを示すヒントとなる予定である。

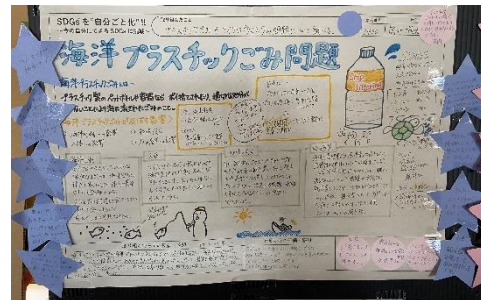


17の目標ごとに具体的取り組み例を挙げた冊子を作成

高校では、学習したことを実践に活かし、発信する力を身につけてほしい事を伝えるためである。この冊子は、ゴールデンウィークの課題の参考資料としても活用するとともに、授業でも活用する（活用事例は後述）。具体的な活動例を書き込むことで、消費者として自分ができることを示すヒントとなる予定である。

○SDGs 調査・実践および発表会。個人⇒グループ⇒クラス⇒学年へと発展し、『まとめる・話し合う・発表する・他から学ぶ』経験を積む。発表に慣れる。

ゴールデンウィークを利用し、「SDGs」についての調査や実践レポートを課した。家族の評価は『子供と一緒に勉強した』『意識することが第一歩なると子供から学ばされた』『できることを行動に移してくれることに期待』『今後も一緒に調べ、話し合っていきたい』など多くの激励の言葉であふれていた。



班代表作品。●に班員の評価、発表後★に他班からの評価

SDGs に対する関心の高さを実感し、高校生が家族や地域を巻き込んで行動することが社会を変える大切な一歩であることも確認した。

調査や実践の成果を学年全体で共有し、学びを深めたい、またこれからの社会に必要なプレゼンテーションスキルにつなげたいと考え、発表会を行った。発表に際しては次の工夫をした。

- ① グループ内個人発表。聞き手は、相互評価シートへ記入、SDGs 冊子に実践例を書き込む。
発表後、グループ代表作品を選出。選出作品には班員の「ほめコメントカード」を貼り付け、クラス発表に向けて加筆修正を行う。（1時間）
- ② クラス内発表。作品を電子黒板と個人PCに投影、代表者は電子黒板前で発表。聞き手はSDGs 冊子に実践例を書き込み、発表後「ほめコメントカード」を記入する。（1時間）



①班発表。相互評価、情報共有 ⇒ ②班代表が発表し、クラスで情報共有、他班からの評価 ⇒③パネル展示し、学年で情報共有

③ 各班からの「ほめコメントカード」を張り付けた作品をパネルにし、展示。展示作品を全クラスで鑑賞し、情報を共有する。(時間外)

発表会では、発表者は電子黒板とワイヤレスマイク、指示棒などを自由に使用させた。マイクの使用で発表者の士気を高め、発表作品にはメンバーからのほめコメントシールを足し「班としての作品」という認識で発表に臨むことができたため、自信あふれる発表ができた。

さらに、他の班からの評価(ほめコメントカード)は生徒たちにも好評で、生徒たちが展示したパネルに興味深く閲覧する様子や、代表作品制作者の得意げな表情が印象的であった。

この取り組みは、1 学年生徒だけでなく全校生徒、教職員への SDGs への意識づけ及び生徒のプレゼンに対する苦手意識の払拭へとつながるものとなった。

○企業との連携事業『SDGs×制服生地アイディアプレゼン』。プロに学ぶ経験、大人の前でプレゼンする経験を通して、生徒は生き生きと取り組み、飛躍的な成長を遂げた。

授業開きの際、今年の被服製作は『SDGs×制服生地』をテーマに制服生地のアップサイクルに取り組むこと、企業との連携事業を行うことを伝えた。これは、制服生地の残反を活用したアップサイクル商品(製作・販売することを前提とする)をグループで考案し、商品および売り上げの SDGs 的活用方法をプレゼンテーション、クラス 1 位の商品を被服製作実習作品とするものである(製作は一人 2 つ行い、自分用、販売用とする)。夏季休業中に各家庭でのリサーチ作業を課した。

協力いただいたカンコー学生服様とは、夏季休業後半に講義内容や授業の進め方、発表会日程などの打ち合わせを行った。また、NPO 法人地球市民の会様にも審査員のお願いをした。

9 月、「SDGs セミナー」を実施した。社会や企業が行う SDGs や高校生ができる SDGs についての講義とプレゼンテーション方法の講義をしていただいた。コロナ禍のため体育館での講演を断念し、被服教室での講演様子を各クラスに配信した(配信は本県で導入されている Microsoft Teams を使用)。他教科からの要望もあり、講師の了承の上他の学年や教職員にも配信し、録画した動画は期間限定で教職員や生徒が閲覧できるようにした。生徒たちは、商品アイディア考案やプレゼンテーションへの意欲が高まった様子であった。

次に、グループで協議、プレゼン準備を行った。商品は「販売を視野に入れ付加価値をつける」、売り



リサーチシート (夏休み課題として取り組む)



プロに学ぶ SDGs やプレゼンのコツ。(全クラス同時配信)



商品アイディア、支援計画を練り、プレゼン準備を行う。

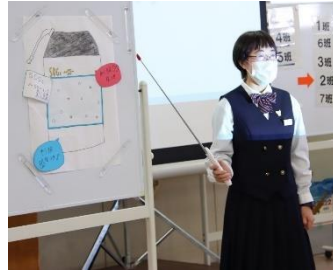


ダブルスクリーン&教室外への配信で雰囲気を高める。

上げ用途は「世界の情勢を把握した上で適切な活用を提案する、なぜその活用なのか、なぜその団体（場所）に支援をするのか、について明確にする」の条件を提示し、SDGs 資料コーナーを設置した。プレゼンセットや文具セットを用意し、自由なスタイルでの発表へとつなげた。商品アイデアとともに、世界情勢や様々な支援機関についても言及された原稿が仕上がった。



TEDをイメージしたプレゼンセット
タブレットスタンド、録画用ビデオ、ワイヤレスマウス、ダブルスクリーンと教室外への配信、ワイヤレスマイク、など



手書きの商品説明、実物などの工夫も。



堂々と、工夫を凝らしたプレゼンを披露。

クラス発表会では、生徒は相互評価を行い、カンコー学生服の2名による審査・講評もいただいた。大人の前での発表、プロの視点での審査・講評に緊張しつつ、発表をやり遂げた。優れたプレゼン能力を発揮する生徒もあり、各班の生き生きとした発表で教室が盛り上がった。

10月22日、各クラス代表班による学年発表会を実施。校長・副校長・学年主任、カンコー学生服、NPO 法人地球市民の会の方々を審査員に迎えた。（今回も被服室から各教室に配信した。）



学年発表会。審査員（管理職、企業の方々）と代表生徒。

クラス代表プレゼンテーションは素晴らしく、教室で視聴した生徒の感想でも「クラスメイトの発表に感動した」「アッという間に時間が過ぎ、とても良い経験だった」「SDGsについて、もっと知りたい！」など感銘を受けた様子が伝わった。賞状や副賞を準備、表彰式も行い、発表生徒の表情は達成感にあふれていた。

○「おにぎりアクション」「モザイクアート」。実行委員中心に主体的に活動に取り組んだ。

講演やグループ活動を通して、生徒たちの「自分たちにもできることを実践したい」という意欲が高まった。文化祭で「おにぎりアクション 2021」への全校生徒参加を提案したところ、各クラス実行委員を中心に活動に取り組んだ。



「おにぎりアクション」の取組を「見える化」したパネル。

おにぎりアクションでは、全校生徒の取組を「見える化」する



地元新聞に掲載していただいた文化祭企画

パネルを製作し、SDGsの意識を広めるために「プラゴミモザイクアート」にも取り組んだ。クラスの結束力も高まり、地元新聞でも紹介され、「実行することが大切だ！」「来年もしたい！」と前向きなコメントが寄せられた。

○キャリアプランシート（ポートフォリオ）

「デジタルポートフォリオでまとめる」をテーマに掲げていたが、今研究では紙面でのキャリアプランシート（ポートフォリオシート）の作成に留まった。学年ごとのシートで3年間を見渡し、部活動や学業、特別活動の実績を記入する。1年時のSDGsへの取組が実績として残り、進路意識へつながることを期待する。

3年間を見渡し、書き込むキャリアプラン（ポートフォリオ）

5. 研究の成果

「おにぎりアクション」「制服×SDGs プレゼン」を筆頭に、自分にできることを考え、実践し、発信する生徒の姿、人前で堂々と発表する姿が大きな成果である。校外連携による異世代の方との触れ合い、多くのグループ協議や発表は生徒の印象に残り、授業アンケートでも「発表が苦にならなかった」「自分が変わることが大事だ」「グループ活動が好きだ」の声が多かった。グループ活動における役割分担の指示、発表や掲示物による意見の共有や生徒作品の掲示物も功を奏し、他者を認め、他者から学ぶ姿勢や多様な価値観による柔軟な発想力も育ったように感じる。

さらに、今回の実践事例をカンコー学生服のHPにいくつかの記事を掲載していただいた。家庭科の先生だけでなく多くの方々に「高校生のやる気に火をつけ、高校生が輝く手立て」として参考にしていただけるものとする。



生徒の頑張りは、その都度動画や掲示物で紹介



6. 今後の課題・展望

1年時の活動を2,3年へとつなげ、SDGs達成へ向けた継続した活動プログラムとすること、今回紙面で作成したポートフォリオをデジタル版へ改良し、大学入試や就職試験時にPR材料として仕上げることである。また、校外連携のための経費捻出やさらなる人脈作りも課題である。

7. おわりに

連携先のカンコー学生服様（SDGsの一連の取組についての協力や取材、Webページへの記事掲載）、NPO法人地球市民の会様をはじめ貴財団、他関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

8. 参考文献

・国谷裕子（2019）『国谷裕子と考えるSDGsが分かる本』『国谷裕子とチャレンジ！未来のためのSDGs』文溪堂・マリー・G・ローデ（2020）『環境破壊モンスターから地球を救おう！』河出書房新社・川廷昌弘（2020）『未来をつくる道具私たちのSDGs』ナツメ社 他